

令和6年度使用小学校教科用図書  
調査研究結果報告書

# 国語・書写



京築教育事務所管内教科用図書調査研究協議会

# 小 学 校 教 科 書 一 覧

教科書種目	国 語
-------	-----

発行者名	番号	略称	教科書名(シリーズ)
東京書籍(株)	2	東 書	新編 新しい国語
教育出版(株)	17	教 出	ひろがる言葉 小学国語
光村図書出版(株)	38	光 村	国語

教科書種目	書 写
-------	-----

発行者名	番号	略称	教科書名(シリーズ)
東京書籍(株)	2	東 書	新編 新しい書写
教育出版(株)	17	教 出	小学 書写
光村図書出版(株)	38	光 村	書写

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
国語	2	東書	新編 新しい国語

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>○児童の関心や発達段階に応じて適切に単元が構成されている。</p> <p>○学年の目標と内容を不足なく扱っている。</p> <p>○1単元1領域で構成し、指導事項が重点化されている。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>○単元の導入「思い出そう」では、単元の学習と関連する既習の「言葉の力」が明確に示されており、系統性を踏まえた上で、単元で身に付けさせたい「言葉の力」を段階的・発展的に積み上げていくことができる。</p> <p>○単元末の「ふり返る」では、「言葉の力」がまとめられ、「言葉の力」を育成するためにどのような言語活動を行うのかが明示されている。</p> <p>○単元末の「生かそう」では、身に付けた「言葉の力」を日常生活の中でどのように生かすことができるのかが示されている。</p> <p>○2年以上の巻頭には当該学年で学習する「言葉の力」を見通す「言葉の力を集めよう」を設け、児童が見通しをもって主体的に学習に取り組めるように構成されている。また、巻末には当該学年で学習した「言葉の力」をふり返る折込「言葉の力のつながり」を設け、3年以上では、前学年で学習した「言葉の力」もあわせて掲載し、児童が「言葉の力」の系統やつながりを意識して学習をふり返ることができるようにしている。</p> <p>○言語教材では、練習問題のQRコードがあり、学習内容を確実に身に付けることができるように配慮されている。</p>
	3 分量	<p>○学年の配当時数に応じた適切な単元・教材数・分量である。領域ごとのバランスも適切である。</p>
	4 使用上の便宜	<p>○行を見つけやすいように1行ごとにドットで示している。</p> <p>○各単元にはQRコードがあり、学習に関連する大切な情報を適宜取り出すことができるようになっている。</p> <p>○2年以上に「国語ノートの作り方」として、ノート作りの例が示され、3年以上には「デジタルノートの作り方」としてタブレット等で思考ツールを用いたノート例も示し、より深い思考へ導くよう配慮されている。</p>
	5 印刷・製本等	<p>○印刷は鮮明で、文字は読みやすい。文字指導にも適している。</p> <p>○4年までは、上下巻の分冊、5・6年は1年間1冊で構成している。</p>
教科ごとの選定の観点	<p>1 各領域の単元を「見通す」→「取り組む」→「ふり返る」の課題解決的な3ステップの学習過程で構成され、着実に資質・能力を身につけ、学びが深められるようになっている。</p> <p>2 語彙と文法に特化した「言葉相談室」では、主述のねじれ等、児童がつまずきやすい項目を精選しており、言葉の力を身に付ける土台となる基礎的な学習ができるようになっている。また、題材は、日常生活や他教科との合科的・関連的指導、家庭や地域との連携を図ることができる内容になっている。</p> <p>3 単元の導入では、学習意識をもつことができるように、吹き出しを使った児童の対話が示されている。また、対話的な学びを通して、自分の考えを広げ深めることができるように、「ふり返る」では各領域で対話活動が位置付けられている。</p>	

- |  |   |
|--|---|
|  | <p>4 巻末に「言葉の広場」や「学習で使う言葉」「言葉の力」等、日常生活や学習活動に必要な語彙を一覧にまとめ、活用できるようにしている。語彙は質・量ともに充実している。</p> <p>5 「言葉」に関わる小単元を設け、日常生活を振り返り、考えたことを書いたり、話し合ったりすることができる内容になっている。「伝えたい言の葉」では慣用句、伝統芸能などを教材とし、言語文化に触れることを通して日本語の美しさや豊かさを感じることができる内容となっている。</p> <p>6 [A 話すこと・聞くこと]については、児童の興味や関心、ものの見方・考え方や価値観の交流を通じて、多様な個性を認め合い尊重する態度を養う内容になっている。</p> <p>7 [B 書くこと]については、「説明の文章」「物語や詩歌」「手紙」「意見」「1年をふり返る」等の学習を通して、相手・目的に応じて、多様な文章を書くことの指導ができる内容になっている。</p> <p>8 「読書」及び[C 読むこと]については、図書館の使い方や読書体験を豊かにするための多様なジャンルや著名人の読書体験エッセイ紹介等、年間を通じて読書に親しめる構成で日常の読書活動につながる内容になっている。</p> <p>9 児童の発達段階に応じて、生活経験と結びついた話題や題材を精選して様々な分野から調和的に取り上げている。</p> |
|--|---|

教科書種目	発行者		教科書名(シリーズ)
	番号	略称	
国語	17	教出	ひろがる言葉 小学国語

項目		項目毎の調査研究結果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>○児童の関心や発達段階に応じた題材を取り上げており、教科及び学年の目標を達成するための適切な単元構成となっている。</p> <p>○「読む」と「書く」や「話す・聞く」と「書く」の複合単元が設定されており、教科の内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>○単元で身に付けさせたい力が単元末の「ここが大事」でまとめられており、汎用性のある学習のポイントとして、次の学習でも役立てることができるようにしている。</p> <p>○「読むこと」の単元前には、「学びのとびら」を1ページ設け、児童の「読みたい」という意欲を喚起する一文を示すことにより、教材文への関心を高めるようにしている。</p> <p>○「学習の手引き」では、めあてと振り返りを対応させ、学習の流れがつかめるようになっている。また、上下2段に整理されており、下段には学習を支える様々なツールや例が示され、どのような言語活動を通して学ぶのか明確になっている。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の題材では「学習の進め方」の欄を設け、学習指導要領に基づいた学習ステップが設定されている。</p>
	3 分量	<p>○学年の配当時数に応じて適切な単元・教材数・分量である。領域ごとのバランスも適切である。</p>
	4 使用上の便宜	<p>○「読むこと」の題材では、行を見つけやすいように、各ページの下部に5行ごとに数字、1行ごとにドットが打たれている。</p> <p>○絵や写真、図、グラフなどを掲載し、本文理解を助けたり、イメージを広げたりすることができるようにしている。</p> <p>○「まなびリンク」では、QRコードがあり、ウェブサイトと連動して児童作品例の別バージョンや資料画像等の情報を取り出すことができる。</p> <p>○上位学年の漢字であっても適宜振り仮名を使用し、違和感のある交ぜ書きをできるだけ避けている。</p>
	5 印刷・製本等	<p>○入門期には声の大きさに文字の大きさを対応させている。</p> <p>○児童の身体の発達状況を考慮し、1冊あたりの重量が軽い全学年分冊である。新しい教科書と出会う期待と喜びを大切にしている。</p> <p>○低学年は、分かち書きで、読みやすい。</p>
教科ごとの選定の観点	<p>1 読むことについては、「たしかめよう」→「くわしくよもう」→「まとめよう」→「つたえあおう」という学習過程であり、「書くこと」、「話すこと・聞くこと」についても学習の進め方が示され、学びが深められるようになっている。</p> <p>2 日常生活や他教科との合科的・関連的指導、家庭・地域との連携を図ることができる内容になっている。</p> <p>3 対話を通して学びを深めることができるように、各領域で対話活動が位置づけられている。視点を明確にした上で対話をしたり、活動の具体的なイメージをつかんだりすることができるように、吹き出しを使った子ども達の対話モデルがわかりやすく示されている。</p> <p>4 巻末に「言葉の道具箱」として「言葉の木」「学ぶときにつかう言葉」「情報のまとめ」など大切な言葉がまとめられ、活用できるようにしている。語彙は質・量ともに充実している。</p> <p>5 「言葉」に関わる小単元を設け、日常の言語活動を振り返り、考えたことを書いたり、話し合ったりすることを意識できる内容になっている。昔話、古</p>	

	<p>典、漢文等、他国の文化や我が国に伝わる言語文化に触れる題材が配列されており、郷土を愛する態度を養うことができる内容となっている。</p> <p>6 [A 話すこと・聞くこと] については、[話す・聞く・話し合う] ことの意義が感じられるように、日常生活、学習生活等を題材とし、発達段階に即して、系列的に学習ができるようになった。</p> <p>7 [B 書くこと] については、相手・目的意識が明確な題材を扱っており、書く活動の必然性を生み出し、書く意欲が喚起されるようになっている。また、相手や目的に応じて、パンフレットや意見文などの多様な種類の文章を書く事ができる内容になっている。</p> <p>8 「読書」及び [C 読むこと] については、年間を通じて「読書の広場」という読書単元が設けられ、読書によって生活を豊かにしようという意欲を引き出すことができる。図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図るための情報活用教材を各学年に設けている。</p> <p>9 児童の発達段階を考え、生活経験と結びついた話題や題材を精選して様々な分野から調和的に取り上げられてる。</p>
--	---

教科書種目	発行者		教科書名(シリーズ)
	番号	略称	
国語	38	光村	国語

項目		項目毎の調査研究結果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>○児童の興味・関心や発達段階に応じて適切に単元が構成され、教科及び学年の目標を達成するための内容を不足なく扱っている。</p> <p>○「読む」と「書く」の複合単元が設定されており、領域の内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>○巻頭に「国語の学びを見わたそう」を設け、国語学習の進め方と前年度までに学んだ言葉の力、当該学年で学ぶ言葉の力を示し、児童自身が学び方と身につける力が見渡せるような内容になっており、国語学習への期待と意欲を喚起するよう工夫されている。(ブックインブック構造)</p> <p>○「読むこと」の学習では、「単元のとびら」を1ページ設け、イラストとリード文から、どのような内容かを想像し、読むことへの興味・関心を喚起できるようにしている。</p> <p>○児童に学習への目的意識をもたせ、身に付けさせたい力を育成することができるように、「問いをもとう」「目標」が新設されている。</p> <p>○単元で身に付けさせたい力が単元末に「たいせつ」としてまとめられている。また、巻末に「たいせつ」のまとめが設けられ、各領域において1年間の学びを見渡すことができるようになってきている。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元冒頭に「見通しをもとう」、単元末に自己評価の観点である「ふりかえろう」があり、主体的に学習に取り組めるようになってきている。その学習で身につける「目標」や「課題」「ふりかえり」「たいせつ」等、一連の学習の流れが示されている。また、上下2段に整理され、学習の流れが明確に示されており、児童が主体的に取り組むことができるようになってきている。</p> <p>○単元末に「いかそう」が設けられ、学んだことを他教科等の学習や日常生活、読書生活の場面で活用できるようにしている。</p>
	3 分量	○学年の配当時数に応じて適切な単元・教材数・分量である。領域ごとのバランスも適切である。
	4 使用上の便宜	<p>○QRコードを読み取ることで「話すこと・聞くこと」の実写動画や教科書では中略されている「書くこと」の作例全文、資料動画、資料写真、音声など教科書に連動したコンテンツを閲覧でき、本文理解を助けたり、イメージを広げたりすることができるようにしている。</p> <p>○新出漢字は当該ページ欄外に語として抽出し、読みの負担を軽減している。また、3年以降では、新出箇所を小学校で習う全ての読み方が示されている。</p>
	5 印刷・製本等	<p>○本文は読みやすく、書き文字に近い児童に正しい字形を意識させることができる字体となっている。</p> <p>○4年生までは、上下巻分冊、5・6年生は学年1冊である。高学年としての自覚を深め、中学校入学時の環境変化に適応するよう配慮されている。</p>

教科ごとの選定の観点

- 1 「読むこと」については、「とらえよう」→「ふかめよう」→「まとめよう」→「ひろげよう」という学習過程であり、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」についても学習の進め方が示され、学びが深められるようにしている。「読むこと」では、言葉による見方・考え方を働かせながら主体的に学習できるように、学習の進め方の中で「言葉に着目しよう」として、着目させたい言葉や表現をまとめて提示している。
- 2 他教科等の学習や日常生活、読書生活との関連が図れるような内容になっている。また、指導事項を焦点化した小単元「書くときに使おう」を新設し、学習の積み重ねを実感し、他の単元でいかせる内容にもなっている。
- 3 各領域の単元の終末では、対話的な学びを通して自分の考えを広げ深めることができるように、視点を明確にした対話活動が位置付けられている。
- 4 「季節の言葉」（2年以上）を年4箇所設け、日本人の季節感を育んできたさまざまな伝統行事や風物などを言葉として取り上げるなど言語感覚を豊かにする工夫がされている。また、巻末に「伝え合うための言葉」「言葉のたから箱」（2年以上）を設け、思考や表現に関わる言葉を繰り返し使う中で、学びを確かなものにするようにできているようになっている。
- 5 「言葉」に関わる小単元を設け、日常の言語活動を振り返り、考えたことを書いたり、話し合ったりすることができる内容になっている。古典芸能、漢文等、我が国及び他国の言語文化に触れる題材が配列されており、郷土を愛する態度を養うことができる内容となっている。
- 6 [A 話すこと・聞くこと]については、児童の日常生活、学校生活、学習場面に取材し、「話す・聞く・話し合う」ことの意義が感じられるように、発達段階に即して題材を選定している。
- 7 [B 書くこと]については、相手と目的の明確な話題・題材と児童がイメージしやすい場、書く必要性和必然性を感じ意欲が喚起されるよう工夫している。また、学年初めにアイスブレイク教材「楽しく書こう」を設け、書くことを通じて友達とつながり、自己肯定感をもつことができるよう配慮されている。
- 8 「読書」及び「C 読むこと」については、年間2箇所に読書単元を設け、多様なジャンルの作品が紹介されている。また「読むこと」単元の手引き及び巻末に学年に適した本の紹介がなされ、読書に親しむ習慣を育むよう配慮されている。
- 9 児童の発達段階に即して、児童の身近なこと、興味・関心をもてることを様々な分野から話題や題材として選定している。

教科書種目	発行者		教科書名(シリーズ)
	番号	略称	
書写	2	東書	新編 新しい書写

項目	項目毎の調査研究結果	
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>○学習指導要領の書写に関する事項を不足なく指導し、ねらいを達成できるように単元を組織、配列している。</p> <p>○「見つけよう」→「確かめよう」→「生かそう」の学習展開で、姿勢・持ち方、点画の書き方、書くときの動き、字形など基礎的・基本的な内容を発達段階に応じて、系統的、段階的に習得できるようになっている。</p> <p>○単元の指導事項に適した字形を持つ文字、学年段階に応じた語彙を選択している。</p> <p>○硬筆の題材文章は発達段階にふさわしい文学教材や伝統的言語文化教材などから設定している。</p> <p>○巻末には既習の平仮名、片仮名、ローマ字、漢字の一覧がある。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>○単元導入で、何を学ぶのかという学習のねらいを明示し、大切なことを「書写のかぎ」として示している。巻末には「書写のかぎ」一覧があり、当該学年までの学びを振り返ることができるようにしている。</p> <p>○1・2年には、水書用紙が付属している。運筆指導をすることで、硬筆書写能力を高めることができ、毛筆を使用する書写指導への移行が円滑にできるようにしている。</p> <p>○巻末の漢字一覧は、間違えやすい部分の筆順のみ記されている。</p>
	3 分量	<p>○学年の配当時間に照らして適切な単元数、分量で、硬筆、毛筆の学習ができるようにしている。</p> <p>○文字の書き込み欄が充実していて、分量もよい。</p>
	4 使用上の便宜	<p>○書写の学習要素を系統的に分類・整理し、インデックスに示すことで、児童自身が系統性を意識して学習できるように工夫されている。</p> <p>○単元の内容に応じて、キャラクターの吹き出しで書くときのポイントが視覚的に示され、内容理解の助けになるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の「見つけよう」ではQRコードがあり、毛筆の準備や運筆、毛筆の片付けなどの動画や書く姿勢など充実した情報を適宜取り出すことができるようになっている。</p>
	5 印刷・製本等	<p>○鉛筆で書き込みしやすく、軽量で耐久性に優れた用紙である。</p> <p>○利き手にかかわらず教材文字が見えるように書き込み欄を上下や左右両方に配置し、どちらか選択できるように工夫されている。鉛筆の持ち方も、左利き児童にも対応し、右利き・左利き両方の写真が掲載されている。</p>

<p>教科ごとの選定の観点</p>	<p>1 「生活に広げよう」において、原稿用紙や実験記録、はがきやポスターの書き方等、国語や各教科と連動した言語活動を取り上げ、学習や生活などの様々な場面で積極的に活用することができる内容になっている。</p> <p>2 毛筆と硬筆との関連的な指導を位置付け、硬筆による書写の能力を高めるようにしている。</p> <p>3 毛筆教材と硬筆教材との配分を考慮し、適切な順で単元を配列している。 単元は、①硬筆で、文字を整えて書くための知識・技能「書写のかぎ」を発見し課題を共有する→②毛筆で大きく書くことで確認する→③硬筆で別の文字を書くことで定着を図る→④振り返るという展開で、毛筆を使用する学習が硬筆で書く力の基礎を確実に習得させる構成になっている。</p>
-------------------	--

教科書種目	発行者		教科書名(シリーズ)
	番号	略称	
書写	17	教出	小学 書写

項目	項目毎の調査研究結果	
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>○学習指導要領の書写に関する事項を不足なく指導し、ねらいを達成できるように単元を組織、配列している。</p> <p>○「考えよう」→「ここが大切」→「生かす・広げる」の学習展開で始筆、筆遣い、字形、文字の大きさや配列等、基礎的・基本的な内容を発達段階に応じて、系統的、段階的に習得できるようになっている。</p> <p>○単元の指導事項に適した字形を持つ文字、学年段階に応じた語彙を選択している。</p> <p>○鉛筆の持ち方を全学年に図版、写真で取り上げ、確認できるようにしている。また、文章も発達段階にふさわしい文学教材や伝統的言語文化教材などから設定している。</p> <p>○巻末には既習の漢字一覧等があり硬筆の平仮名・漢字には筆順が記されている。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>○単元導入で、何を学ぶのかという学習のめあてを明示し、大切なことは「ここが大切」に整理している。巻末に「もう一度確かめよう」としてまとめている。</p> <p>○学習のはじめに「ためし書き」で自分の課題に気付き、終わりに「まとめ書き」をして、「ためし書き」と比較して振り返ることで、自身の成長に気付くことができるようにしている。</p> <p>○学習の振り返りでは、めあてについての振り返りができるようにしている。</p> <p>○1・2年には、水書用紙が付属している。運筆指導をすることで、硬筆書写能力を高めることができ、毛筆を使用する書写指導への移行が円滑にできるようにしている。</p>
	3 分量	<p>○配当時間に照らして、効率的で無理のない硬筆、毛筆の学習ができるようにしている。</p> <p>○教科書には硬筆の練習用書き込み欄は少ない。学んだことを他教科や生活に生かしていく構成となっている。</p>
	4 使用上の便宜	<p>○運筆のリズムを音声やキャラクターの動きで表し、体感しながら身に付けることができる。</p> <p>○穂先の向きを時計の針に例える等、児童にとって分かりやすい「例え」の図版が工夫されている。</p> <p>○2年の最後に発展として、毛筆について触れている。</p> <p>○QRコードと連動した資料により、左利きで書く場合の毛筆用具の置き方等を確認でき、個別最適な学びに配慮している。</p> <p>○「まなびリンク」では、毛筆動画を視聴し、運筆を確認することができる。</p>
	5 印刷・製本等	<p>○鉛筆で書き込みしやすく、軽量で耐久性に優れた用紙である。</p> <p>○見開きを基本とした見やすいレイアウトである。</p>

<p>教科ごとの選定の観点</p>	<p>1 文字を正しく整えて書くとともに、「レッツ・トライ」や「書いて伝え合おう」では、横書き、手書きポスター、年賀状等などの言語活動が多く取り入れられており、他教科や日常生活に生かせるようになっている。</p> <p>2 「めあてを知る」→「考える」→「ためし書き」→「確かめながら練習」→「まとめ書き」→「ふり返り」の過程を通して硬筆を使用する書写の指導をすることができる内容になっている。</p> <p>3 「考えよう（毛筆）」「生かそう（硬筆）」「硬筆の学習」の学習展開になっており、硬筆と毛筆を関連させ、毛筆学習の成果が確実に硬筆学習につながるような教材構成となっている。「なぜ毛筆の学習をするのか」「毛筆で学習したことが鉛筆で書くときにも生かせる」ことを3年の巻頭で示し、毛筆の学習が硬筆で書く力の基礎を確実に習得させる構成になっている。</p>
-------------------	---

教科書種目	発 行 者		教科書名(シリーズ)
	番 号	略 称	
書写	3 8	光村	書写

項 目		項 目 毎 の 調 査 研 究 結 果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>○学習指導要領の書写に関する事項を不足なく指導し、ねらいを達成できるように単元を組織、配列している。</p> <p>○「考えよう」→「確かめよう」→「生かそう」の学習展開で、始筆、筆遣い、字形、文字の大きさや配列等、基礎的・基本的な内容を発達段階に応じて系統的、段階的に習得できるようになっている。</p> <p>○単元の指導事項に適した字形を持つ文字、学年段階に応じた語彙を選択している。</p> <p>○巻末には既習の平仮名、ローマ字、漢字の一覧があり、硬筆の平仮名には終筆のポイント、漢字には筆順が記されている。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>○単元導入で、何を学ぶのかという学習のめあてを明示し、大切なことを「たいせつ」として示している。また、巻末に「たいせつ」をまとめている。</p> <p>○6年の「書写ブック」では、6年間の書写の学習で身に付けた力をまとめ、児童が、いつでもふり返ることができるようにしている。</p> <p>○硬筆題材文章は国語科の学習と連動している。</p> <p>○巻末の漢字一覧は、間違いやすいところの筆順のみ記されている。</p> <p>○1・2年年には、水書用紙が付属している。1年では終筆の筆遣いを体感し、2年では水書用筆を生かした漢字学習を行う等、運筆指導をすることで、硬筆書写能力を高めることができ、毛筆を使用する書写指導への移行が円滑にできるようにしている。</p>
	3 分量	<p>○配当時間に照らして、効果的で無理のない硬筆、毛筆の学習ができる。</p> <p>○低学年の硬筆での書き込み欄は充実している。高学年は硬筆での書き込み欄は少なく、学んだことを日常に生かしていく構成となっている。毛筆は充実している。</p>
	4 使用上の便宜	<p>○全教科の基礎である姿勢・筆記用具の持ち方が学習習慣として定着するよう「書写体操」が示され、授業の最後やタブレット使用後に行う「整理体操」が全学年に新設されている。また、タブレットを使う際の正しい姿勢も示されている。</p> <p>○書写学習が始まる1年と毛筆学習が始まる3年に「スタートブック」を設け、書写学習の目的や用具の使い方、学習の進め方等を写真で示すことにより、見通しをもって、主体的に学習に取り組む態度を養うことができるように工夫されている。</p> <p>○キャラクターの動きや擬態語・擬声語を活用して、直感的に筆遣いを理解することができるようになっている。</p> <p>○QR コードを用いて、毛筆や硬筆教材の筆遣い動画、左利きの児童への対応、準備など情報を取り出すことができる。</p> <p>○「はってん」として2年の最後に毛筆について触れ、3年からの毛筆への導入を円滑にしている。</p>

	5 印刷・製本等	<p>○強度が高く鉛筆で書き込みしやすく耐久性に優れた用紙である。</p> <p>○すべての児童が学習に集中できるように、大切なことが一目で分かる紙面構成である。</p>
教科ごとの選定の観点	<p>1 児童が必然性をもって学習できるように日常生活とのつながりを実感できる学習活動を設定している。国語（横書き、原稿用紙、手紙）や他教科、日常生活場面とのつながりのある学習が充実するように配慮されている。また、各学年に「ことば」を設け、書写で学んだことを生かして、日常の言葉や物語、短歌・俳句を書いて味わうことができる教材を取り入れている。さらに、6年には6年間で学習する書写の要素をまとめたページ「書写ブック」があり、他教科や日常生活に生かせるようになっている。</p> <p>2 考える、確かめながら練習、まとめ書き、振り返りの過程を通して硬筆を使用する書写の指導をすることができる内容になっている。</p> <p>3 「考えよう」→「確かめよう（毛筆）」→「生かそう（硬筆）」という学習展開となっており、毛筆を扱う際には、教材文字と同じ要素をもつ硬筆課題を教材に設け、毛筆で学習したことが硬筆に生きるように工夫されている。</p>	